

2025～26年度 RI第2650地区

創立 昭和36年6月28日  
承認 昭和36年8月 3日

勝山ロータリークラブ週報

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30  
例会場 勝山市市民交流センター  
〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地  
TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760  
URL : <https://rid2650.gr.jp/club-katsuyama>  
Email:katsuyamarc@gmail.com  
■会長 滝川 博則 ■幹事 辻 利津子  
編集発行・文責 公共イメージ委員会

会長メッセージ

～ 縁（えにし）  
を継なく ～



第3101回 例会 (11月18日)

●会長スピーチ

会長 滝川 博則



皆さん、こんにちは。本日もお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。  
まず、この2週間の出来事を振り返りながら、皆さまと共有したいと思います。  
11月6日、荒土小学校に理科作品展の金賞受賞者に賞状の代読と金メダルの授与に行ってきました。  
せっかくの機会ですので、ロータリークラブがどんな団体かを小学生にも分かるようにかみ砕いてお話ししてきました。



11月8日には、三国にてIMが開催されました。  
IMに先立って県下RC会長幹事会が行われ、各クラブから活発な意見が寄せられ、非常に有意義な時間となりました。  
そしてIM本会議では、「働く環境を整えることの重要性」について学び、改めて組織としての意識づくりの大切さを感じる機会となりました。  
続いて、先週末の15日・16日の土日には、多くの行事が重なりました。  
市民活動ネットワークまつりが新蕎麦まつりと合同で開催され、辻幹事と小林奉仕プロジェクト委員長が参加してくださいました。  
特に小林委員長は、午前10時から午後2時まで綿菓子担当として大活躍されたとのことで、本当にお疲れさまでした。



地域のために身体を張って活動していただいたことに、心より感謝申し上げます。  
一方、私はその時間、市の消防団として救命救急講習に参加しておりました。講義に加え、AEDを使った実務訓練も行われました。  
今年、近所の方が倒れた際に実際に救助にあたった経験もあり、今回はこれまで以上に“自分ごと”として学ぶことができました。  
改めて、日頃からどこにAEDが設置されているのかを把握し、いざという時に備えることの重要性を強く感じたところです。  
ロータリーの活動も、地域の行事も、そして防災や救命も、どれも私たちの生活に密接に関わる大切な取り組みです。  
これからも互いに支えあいながら、地域に思いを寄せ、行動していくクラブでありたいと思います。

●幹事報告

幹事 辻 利津子

- 地区財団補助金管理セミナー  
2026年1月24日(土)13:20～ リーガロイヤルホテル京都
- 例会終了後、理事役員会を行います。
- ◆到着物
  - 75周年記念式典参加お礼 福井ロータリークラブ
  - IM登録お礼 三国ロータリークラブ
  - 勝山市民活動ネットワークまつり 参加協力お礼

●委員会報告

●親睦ロータリー家族委員会 幅田 浩二  
クリスマス家族例会の申し込みは本日締め切りとなっていますのでお願いします。

●2026-27年度会長選出について

立候補がありませんでしたので選考委員会を設置します。

●出席報告

山内 智子

11月18日	欠席4名	80.95%
11月8日	欠席11名	47.62%

●ニコニコ報告

笠松 誠一

税務署長納税表彰受賞	滝川博則
早退	織田昌弘
届出欠席	幅田浩司

本日 プログラム	ゲスト卓話 勝山消防署	12月2日 プログラム	総会	12月9日 プログラム	ゲスト卓話 勝山市役所	12月16日 プログラム	ゲスト卓話 勝山青年会議所
-------------	----------------	----------------	----	----------------	----------------	-----------------	------------------

## ゲスト卓話

## 令和6年能登半島地震の状況と災害時の備え

福井大学学術研究院医学系部門  
看護学領域 臨床看護学分野  
災害看護専門看護師 酒井 彰久 氏



本日は令和6年能登半島地震の活動を通じて見えてきた現状と、今後の教訓についてご報告申し上げます。

## 1. 災害看護への関わり

私の専門は災害看護でございます。

大学での教育活動と並行し、NPO法人を立ち上げ、被災地支援を継続的に行っております。

私が災害看護を志すきっかけとなりましたのは、大学3年生の時に地元である愛知県岡崎市で発生した平成20年8月豪雨でございます。この際、被災された方々の心理状況に強い興味を抱き、それを卒業研究のテーマといたしました。

以来、東日本大震災や熊本地震など、各地の被災地で活動してまいりました。令和6年能登半島地震では、1月4日から現地入りし、支援活動を展開いたしました。

## 2. 能登群発地震と令和6年能登半島地震の背景

能登地方では、2020年頃から地震活動が活発化しており（能登群発地震）、特に2023年5月には珠洲市で震度6強の地震が発生するなど、警戒すべき状況が続いておりました。

実は、私のNPOは2023年5月の地震後も珠洲市で復興支援イベントを実施しており、同年12月17日にも餅つきイベントを行ったばかりでした。その約2週間後に、あの大地震が発生したのです。

被災者の方々からは、非常に残念なことに、以下のような油断の声が多く聞かれました。

「昨年も大きな地震が起きたから、もうしばらくは起きないだろう」「まさか1月1日に地震が起きるとは思っていなかった」

## 3. 令和6年能登半島地震の被害状況と特徴

本震は2024年1月1日に発生し、輪島市と志賀町で最大震度7を観測いたしました。

特筆すべきは、犠牲者の内訳でございます。8月時点での死者634名のうち、406名が避難生活の負担などによる災害関連死と認定されております。また、認定待ちの方がまだ数百名いらっしゃることを伺っておりますので、この人数は今後も増加していくと指摘せざるを得ません。

奥能登では道路の寸断により支援が大きく遅れ、また、高齢化率の高さが支援の大きな課題となりました。

## 4. 発災直後の支援活動と過酷な現地の状況

私は1月4日から珠洲市で活動を開始しましたが、まず直面したのは劣悪な道路状況による避難所への到達困難でございました。

1月4日時点では、珠洲市役所が把握できていた避難所は、全50カ所のうちわずか6カ所のみでした。医療班は、未調査の避難所を自ら回り、状況把握に努める必要がございました。避難所は公的施設だけでなく、ビニールハウスのような場所にも点在しており、捜索自体が一つの課題となりました。

発災直後の避難所は、極めて過酷な環境にありました。

ライフライン（水道、電気、ガス）は完全に途絶。住民は井戸水や発電機などを持ち寄って生活されておりました。

通信環境も悪く、情報から孤立する避難所もございました。

収容予定300名の施設に600名が避難するなど、雑魚寝を強いられる場所が多数ございました。

中でも、トイレ問題は特に深刻でした。校庭に穴を掘る、あるいはビニール袋に吸水パッドを敷くといった対応がなされました。

ある避難所では、大便が山盛りになり、それを手で片付けるといったことを繰り返していたという、想像を絶する状況でございました。

また、生活用水についても、被災者の方々から「2リットルのペットボトル1本を10人で分けた」「歯磨きって意外に水を使ってるんですね」といった、切実な声が聞かれました。

## 5. 孤立集落の支援と複合災害の現実

地震による海岸の隆起を住民の方が「波が引いた」と誤認し、津波を警戒して避難されたという事例もございました。

道路啓開後も、孤立集落では段ボールベッドが不足し、食事も「ご飯、もやし、缶詰の肉じゃが」といった、栄養が偏りがちな内容が続いていた状況でございます。

さらに、復興が進む中、9月の大雨により、建設中の仮設住宅に土砂が流れ込むといった複合災害が発生いたしました。被災者からは「地震も辛かったけれども、やっぱりこっちの大雨の方がもっと辛かった」という、絶望的な声が聞かれました。

## 6. 災害の教訓と防災への心構え

今回の教訓として、地震と水害、地震と豪雪など、複数の災害が連続する「複合災害」を想定した備えと、中長期的支援の必要性を強く感じております。

福井大学といたしましても、「能登半島地震の災害支援チーム」を立ち上げ、能登町において月に1回、仮設住宅でのコミュニティ形成支援や健康相談などの活動を継続しております。

最後に、勝山市における災害リスクと防災への心構えについて申し上げます。勝山市にも水害（奥越豪雨での下荒井橋流失）や土砂災害（猪野口地区の石碑）のリスクがございます。

大阪大学の専門家の言葉を引用させていただきますと、「専門家が正しい答えを知っていて、それを教わろうというのではなく、その場で自分たちで考えて成り立つ答えが、結局正しい答えになる」とおっしゃっています。マニュアル通りの行動ではなく、地域住民の皆様が話し合いながら、臨機応変に対応することが、今後の防災において最も重要であると訴え、私の報告とさせていただきます。